

## 立田山の樹木への名札付

C グループ 「この木なんの木」の会

※旧名は「木の名」の会

安富 信博、工藤 卓、坂本 公德、木戸 牧子

### 1 活動内容

① 令和3年9月下旬～11月下旬

② 「この木なんの木」の会の4名（安富、工藤、坂本、木戸）

③ 立田山(森林ミュージアム立田山憩いの森)の観察Aコース、観察Bコース、お祭り広場

④ 9月下旬立田山の調査を行い、樹木への名札付けをすることを決定。  
10月上旬から11月下旬まで、設置する名前確認の調査、名札の作成、  
名札付け、これを繰り返し行い、立田山に6回ほど通い155箇所の名札を付けまし  
た。あわせて既存の名札を洗剤等で洗い45箇所をきれいにしました。

⑤ グループ内の役割分担について

○設置する樹木の名前確認の調査及び札付は全員で実施。

○名札の作成

名札板(切断・研磨)は坂本担当(学校主事の特技を生かす)

名札紐の検討準備は工藤担当(ショロナワを、スプリングは管理セン  
ターから受領)

名札の名前書きは各人の考えで手書き又は、板へのプリント(焼き付け)で作成

○報告資料の収集及び作成

安富、坂本担当

○グループ発表

木戸担当

⑥ 名札設置について

立田山の名札付については、環境共生課の職員方より助言がありましたので、速やか  
に調査を行い全員で協議し決定しました。

名札付の地域を観察Aコース、観察Bコース、お祭り広場にしたのは、調査結果で  
4名のできる能力及び緑化フェア「まち山エリア」のメイン会場がお祭り広場とのこ  
とで最大限に寄与できると総合的に判断して決めました。名札を設置する場所は、皆  
さんの目につきやすい観察道路の経路上及びお祭り広場に重点を置きました。

⑦ 樹種 39 種の選定について（39 種になった経緯）

- ・ 当初は共生課の職員の方から頂いた立田山代表的な樹種(12 種類)を把握し名札を一人で 4 枚ずつ作成しました。
- ・ 次いで A・B コース、お祭り広場の見えづらくなっている名札を経路順に写真を撮り把握・整理し、全員で分担し名札を作成しました。事後名札付をしました。
- ・ その後、管理センターの大野さんの指導を頂き、A・B コース、お祭り広場のつけたほうが良い樹木名を教えてもらい、その日は仮名札を付け写真に撮って把握・整理し、全員で分担し名札を作成、事後名札付をしました。
- ・ 結果的に 39 種類、155 箇所になりました。

2 活動の振り返り

良かったこと：木の名前には不慣れなものばかりで、名前の確認は立田山管理センターの大野さんの指導を受けました。また、名札を付けるワイヤー100本を管理センターから提供して頂きました。

困ったこと：経費を捻出するところがなく、約 2 万円ほどかかり個人負担となりました。

学んだこと：名札の作成、名札付けで木の名前を覚えることができました。

私たちのメンバーには樹木に詳しい方はいません。どちらかといえば、素人に近い知識です。名札付の段階でじっくり樹木を観察する余裕はありませんでした。大野さんから指導を受ける中で樹木の特徴などを聞いて少しずつ分かるようになりました。例えば「イロハカエデ」は「イロハニホヘト」と 7 つに葉が分かれているからだ。コナラとケヤキは同じ種類だが肌の粗さが違う等、少しずつ興味を覚えしました。また、初めて会った者同志がグループで活動し、目標が決まってからは、代表者を置くことなく任務分担、スケジュールを意欲的に決めていきました。この活動を通じ協調性及び目標達成の意欲と達成感を味わう（学ぶ）ことができました。

3 今後の抱負

名札の設置が出来た場所は、立田山の観察 A コース、観察 B コース、お祭り広場の地域のみです。観察 C コース、観察 D コースの整備はまだ不十分です。全域の名札等を整備すれば、もっと魅力のある「森林ミュージアム立田山憩いの森」が出来上がると思います。